

ニューヨークの桜

天理教ニューヨークセンター所長

福井 陽一 Yoichi Fukui

春、ニューヨークの街を散歩していると、市内のあちこちで桜の花を楽しめる。意外に思われるかもしれないが、街路樹で八重桜が人気だったり、一軒家やタウンハウスの庭に八重桜や枝垂れ桜を植えている家が増え、ここ 10 年から 20 年の間に、ニューヨークの人々の間にも、「桜の花を愛でて春を楽しむ」習慣がかなり広まってきているように思われる。近くの校庭には早咲きの桜が咲き、ニューヨークセンターの庭には、ソメイヨシノと八重桜が、春の訪れを知らせてくれる。

ニューヨークの桜は、1912 年、両国の友好関係を祝うため東京市からワシントン DC とニューヨーク市に贈られたのが最初と言われている。ハドソン河畔の公園に最初に植樹されたこの地域は現在「さくらパーク」と呼ばれている。ニューヨークは東京よりかなり北に位置している（青森市と同じぐらいの緯度）ため、例年は東京より 2～3 週間遅れてピークを迎える。毎年 4 月から 5 月にかけて、各地で毎週末のように桜祭りが開催されている。

今年は、ニューヨークセンターがあるクィーンズ区のフラッシング・メドウ・コロナパークで開催された桜祭りに、天理教ニューヨーク少年会の鼓笛隊が久しぶりに出演した。この公園は 1964 年に開催されたニューヨーク万博の会場跡地で、数々の映画に登場する巨大な地球儀のモニュメントや、野球の MLB ニューヨーク・メッツの球場、テニスの US オープンのスタジアムなどがある有名で広大な公園だ。万博が開催された当時、ニューヨーク布教に携わっていた吉田進氏が日本館の起工式でお祓いを行った地でもある。ニューヨーク日系人会が毎年数本ずつ桜の木を寄贈して植樹されており、クィーンズ区の新しい桜の名所になってきている。その日系人会が主催する 20 周年記念の桜祭りだった。

少年会による演奏は、「ミッキーマウスマーチ」「上を向いて歩こう」「スウィート・キャロライン」の 3 曲で、在ニューヨーク総領事館の大使はじめ、来場の多くの方々から好評を博した。少年会の鼓笛隊は、ここ数年間、多くの隊員が少年会を卒業し隊員が急に低年齢化した為、対外的な演奏は休止していた。しかし、地道に練習を続けながら、今回の演奏が実現した。熱心に指導を続けたスタッフの皆さんや保護者の皆さんの努力の賜物だ。

その翌週には、ブルックリン植物園での桜祭りに、ニューヨーク天理雅楽会が雅楽の演奏を行った。ブルックリン植物園の桜祭りは、ニューヨーク市近郊では最大の桜祭りで、毎年 6 万人を超える来場者が訪問する。この植物園は 1910 年に開園し、敷地内に日本庭園や桜の小道・遊歩道があり、アメリカで一般公開された最初の日本庭園とされている。その日本庭園での雅楽の調べは桜を愛でる人々の心を癒したに違いないだろう。ニューヨーク天理雅楽会は、しばらくの間、活動を休止していたが、若い人たちの熱意から再開され、毎月地道な練習が重ねられていた。今回の演奏は、再結成してから初めての公共の場での演奏となった。古典の「越天楽」「五常楽」をはじめ、「さくらさくら」「ふるさと」



桜祭りでの鼓笛の演奏を終えて

「君が代」などが演奏された。

今年の春は、音楽を通してニューヨークの人々と交流し、地域の活動に貢献しながら、天理を知ってもらいたい良い機会に恵まれた。これからもこのような交流を続けていけるように努めていきたい。

天理教スリーデーコース

ニューヨークセンターの桜が咲き始めた 3 月末に、天理教スリーデーコースがセンターで開催され、5 名が受講した。3 日間にわたり、受講生と講師、スタッフが寝食を共にしながら、天理教の基本的な教えを学び、講義、ねりあい、おつとめ練習、ひのきしん活動、グループワークなどが行われた。共に活動し、助け合うことで、より深い親睦も深められる。このコースは毎年春に実施されているが、修了生には、次のステップとして、夏にアメリカ伝道庁で開催されるアメリカ修養会の受講が勧められる。これらの教化育成コースは、アメリカ伝道庁が開発し、初めての人の 90 分で天理教を紹介する「ジョイワークショップ」、3 日間の「スリーデーコース」、1 カ月間の「アメリカ修養会」があり、段階的に教理を学べるように用意されている。

スロベニア布教所 20 周年

今年の春に嬉しい出来事がもう 1 つあった。ニューヨーク天理文化協会を通じて天理教を知り、入信したバーリック・ジュサン氏が布教所を開設して 20 年を迎え、20 周年記念祭が行われた。バーリック氏は、ニューヨークに約 10 年間滞在し、その間に文化協会で日本語を学び、センターの月次祭やアメリカ伝道庁の修養会を受講した。自国のスロベニアに帰国し、数年後にスロベニア布教所を開設した。スロベニアは、ヨーロッパのほぼ中央部に位置する、自然豊かな小さな国で、かつてはユーゴスラビアに属していた。アルプス山脈とアドリア海に接している。スロベニアに住む人々の大多数は、ローマ・カトリック教を信仰しており、人々の生活に大きな影響を及ぼしている。そんな中、細々ながら信仰を続けて、この度 20 年を迎えた。私は記念祭に参拝しながら、これからのスロベニアの新しい道の動きを感じ、喜びを共にした。